



紅木紫檀木画香箱

ひと・あれ・これ

第39回 日本伝統工芸近畿展 松下幸之助記念賞受賞

兵庫県姫路市立置塩中学校教諭 **三浦 信一**

日本工芸会正会員
(昭和58年3月 教育学部 卒業)



大学を卒業して、30年近くになりました。学生時代は、よく奈良の町を散策し、博物館等の見学や、ふとした街角に飾ってある古いものまで、強く興味をひかれてよく見て歩いたものです。私の工芸製作との出会いは、そうした古都奈良での生活の中から感化され、自然と導かれたものだと思います。30年も休まず作品製作を続けていると、階段を一步一步昇っていくようなもので、少しずつ不可能だったことが可能になってきました。

私の場合、正倉院の工芸品のデザインや技法などについて研究を継続しています。今回出品した作品も、材料から技術に至るまで正倉院御物の影響を強く受けています。これらの多くは、金属、角、象牙、和木から唐木まで様々な材料を用いて「美」を表現しています。

私の元にも多くの人からのお世話で様々な材料が集まり、今回の作品となりました。今後も与えられた機会と幸運をしっかりと受け止めて、製作態度を変え、ことなく作品製作に専念していく所存であります。

ひと・あれ・これ



五木拭漆木皿

第39回 日本伝統工芸近畿展 大阪府教育委員会賞受賞

大阪府松原市立松原第七中学校教諭 **天野 豊**

日本工芸会正会員
(昭和53年3月 教育学部 卒業)



私と木工との出会いは大学で技術科に入学してからです。当時の栗栖宏治先生から教科の基礎として木工の手ほどきを受けました。初めて鉋を研ぎ木を削り、体験した中で特に強く興味を持ちましたのは、割物という技法でした。木のかたまりから、盆や盛器を削り出す技法に惹かれ自分もやってみたくて思いました。また、在学中に日本伝統工芸展作家の黒田辰秋氏の展覧会があり、その作品を見て木工には更に高みがあることを知り、この世界に深く引き込まれてしまいました。在学中は土曜も日曜もなく木工漬けの毎日でした。

中学校の教員として勤めだしてから作品制作し続けてはいましたが、自分自身の中で壁に突き当たった気持ちがありました。

その後、人間国宝の村山明先生に教えていただく機会を得ました。先生からは作品への厳しい見方、感覚について今までの自分がいかに甘かったかを学びました。伝統工芸展に出品してからは、この道こそが自分の道と思うようになりました。また、伝統工芸木竹展や近畿展で賞を頂き大変励みになりました。

今後は私もさらに精進を重ね、若い人達に日本の伝統を伝える事にも力を注いで参りたいと考えております。

ひと・あれ・これ 2

特集 よみがえる！新薬師寺旧境内 4

お隣の国、韓国での短期留学プログラム 8

教師力サポートオフィスの開設 10

地域ぐるみでこどもを育む こどもパートナー・スクールサポーターの養成 11

ぶらり散策ガイド〈入江泰吉記念 奈良市写真美術館〉 12

教員研究紹介 クローズアップ 准教授 掘越 紀香 14

ラボ・レター 准教授 中村 元彦 16

どろんこワークショップ in 附属幼稚園 18

2010年秋号

CONTENTS



新薬師寺旧境内 (P.4~)



韓国短期留学プログラム (P.8~)



入江泰吉記念 奈良市写真美術館 (P.12~)



ラボ・レター (P.16~)

留学生レポート 20

課外活動〈剣道部・軽音楽部〉 22

大学祭紹介 22

活躍する奈良教育大生 23

奈良にいきづく仲間たち 24

表紙解説

初秋、島根県出雲市立平田中学校の2年生約40名が修学旅行で本学を訪れ、古代の伝統技法を体験しました。挑戦しているのは、臈縷(ろうけち)。現在のろうけつ染にあたる古代染織技法の一つで、この技法は正倉院宝物にも見られます。

布に溶かした蠟(ろう)で模様を描いて固まった後、草木(今回は紅花)から採取した染料で染め、その後蠟を落

として模様を浮かせ上げさせます。真っ白なシルク布に筆で想いをメッセージに込めます。指導に当たっている文化財・書法芸術コースのみんなも生き活きと楽しそう。

今、教育資料館では、古代日本における装身具の一つである勾玉(まがたま)や中国・唐代に盛行し奈良時代に日本に伝わったとされる木版で印刷する仏画(摺仏)作り体験を開催して

いて、先人の知恵と技術を知る絶好の機会となっています。

体験後は、同館で開催中の『新薬師寺旧境内遺跡展』を見学して、復元模型などを前に、聖武天皇と光明皇后が織りなす歴史ロマンに触れてみられては・・・。(『新薬師寺旧境内遺跡展』1月29日まで。古代伝統技法体験は毎週土曜日のみ開催。)

〈表紙題字〉名誉教授 池田桂鳳